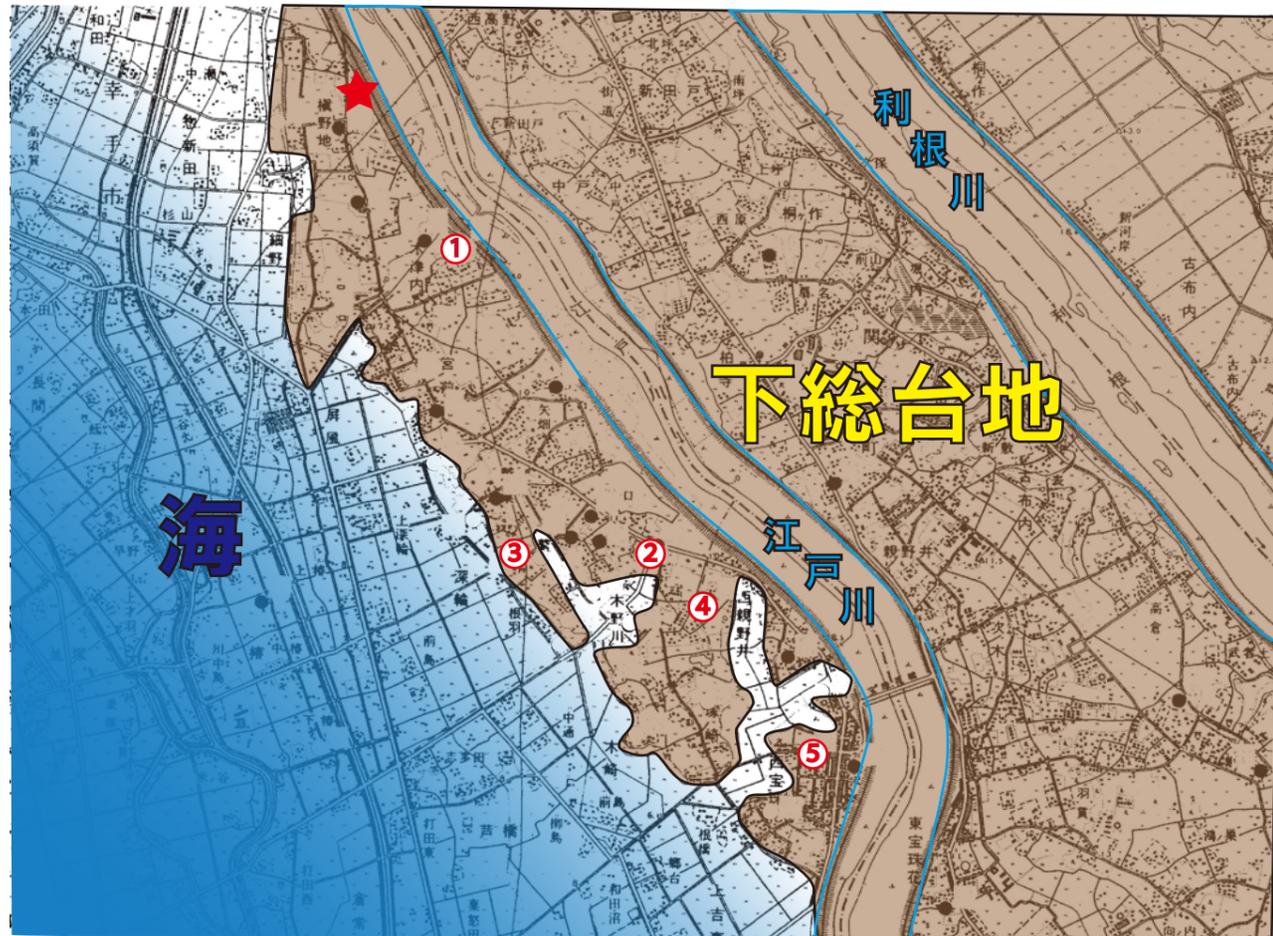


榎野地北遺跡周辺の貝塚



榎野地北遺跡は下総台地の西端に位置する遺跡です。台地の際には、本遺跡のほかにも縄文時代前期の貝塚が確認されています。杉戸町の木津内貝塚(①)、鷺巣貝塚(②)、鷺巣前原遺跡(③)、春日部市の神明貝塚(④)、貝の内遺跡(⑤)などの貝塚が点在しています。現在では海は遠く離れてしまいましたが、当時この地域に住んでいた人々にとって、海は身近で大切な存在であったものと思われます。



★は榎野地北遺跡、○は貝塚



木津内貝塚の貝層



木津内貝塚出土の貝

埼玉に海!? 埼玉だけど千葉!? 茨城!? 平成25年度 第5回遺跡見学会 平成25年11月16日(土)

幸手市 榎野地北遺跡(第3次)



榎野地北遺跡は、幸手市榎野地内にあります。現在、江戸川の堤防強化対策事業に先立ち、発掘調査を行っています。本遺跡は、下総台地の西端に位置し、古代では下総国(現在の千葉県と茨城県の一部)に属していました。

発掘調査では、縄文時代前期(約6000年前)の貝塚と竪穴住居跡、古墳時代前期(約1700年前)から奈良時代(約1300年前)にかけての住居跡などが、多数発見されています。

貝塚が発見されたことは、台地の西側に海が広がっていたことを物語っています。また、奈良時代の住居跡からは、遠方につくられた須恵器が発見され、古代における流通のすがたをうかがい知ることができます。



貝塚の発掘風景



16号住居跡の発掘風景

主催 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 共催 埼玉県教育委員会 幸手市教育委員会
 後援 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所



古墳時代後期・奈良時代

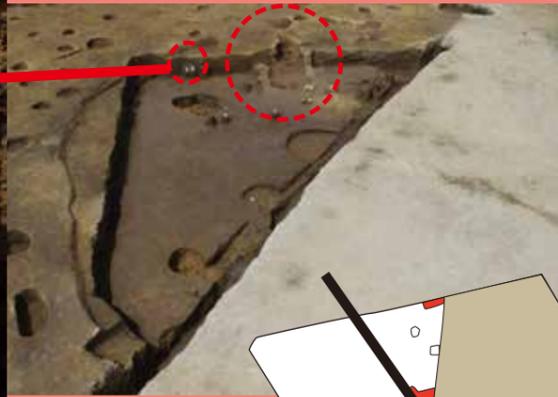
茨城県の土器！

新治窯（茨城県）で生産された須恵器の坏 - 住居の壁際から出土しました

この時代の住居跡は、地面を掘りくぼめた竪穴式住居で、火を焚く施設としてカマドが設けられます。12号住居跡からは、カマドで蒸し器として使われた甑こしきが出土しました。

土器には、土師器はじきの他に、登り窯すえきでつくられた須恵器が見られるようになります。奈良時代の住居跡から出土した須恵器には、粘土に雲母にいはいりを混ぜた茨城県の新治窯跡群や、浜名湖周辺の湖西窯跡群こさいでつくられたものがありました。こうした須恵器の出土は、古代社会において商品の流通が活発に行われていたことを示すものです。

カマド跡



2号住居跡



甑と甕



12号住居跡

古墳時代前期

巨大な住居跡に燃えた痕跡？

古墳時代前期の住居跡は、縄文時代や弥生時代と同じように竪穴式です。火を焚く施設はカマドではなく、床の中心部をくぼめて火を焚く地床炉じしゅうろでした。

16号住居跡はこの時代の住居としては特に大型で、長辺が12mもあります。

また、床の大部分からは、焼けた土（焼土）や焼けて炭になった木材（炭化材）などが大量に発見されました。大量の焼土や炭化材は、この住居が火災で焼失したことを示しています。

炭化材



焼土



16号住居跡

縄文時代前期

本遺跡で発見された貝塚は、地点貝塚とよばれ、もともとは住居でした。貝を食べた人々が、住まなくなった住居に貝の殻を捨てたことによって貝塚になったものです。貝が40cm以上堆積していることから、長い期間にわたってこの場所が貝の捨て場として利用されていたことがわかります。

海の貝が埼玉に？

貝塚の確認状況

貝塚は、食べたあとの貝殻や魚の骨などが捨てられた場所のことです。縄文時代前期は温暖化による海水面の上昇によって、現在よりも海が内陸まで入り込んでいたため、多種の貝を採取することができました。こうした貝塚の発見は、残されていた貝の種類などから、この地域の当時の自然環境を知るうえで、貴重なものとなります。



出土した貝（アサリ・シジミ・カキなど）

榎野地北遺跡

MAP

- 縄文時代前期
- 古墳時代前期
- 古墳時代後期・奈良

0 40m